

歩いて知るきのくに歴史探訪

高野山再発見

古絵図で歩く高野山文化財マップー山内地区ー



上段左: 真然堂出土緑釉四足壺
上段中: 金剛三昧院客殿出土賢瓶
上段右: 大門基壇内の発掘状況
下段左: 大門出土輪轆
下段右: 金剛三昧院客殿及び台所

高

野山は、弘仁 7 (816) 年に弘法大師空海により開創された真言密教の聖地であり、2004 年にユネスコ世界遺産に登録されました。境内は標高約 800m に位置する山上の盆地に広がり、周囲は蓮華の花に例えられて内八葉、外八葉と呼ばれる山々に囲まれています。

盆地西半の尾根筋上には、空海の密教理念を具現化した「壇上伽藍」が築かれ、周辺は高野十谷と呼ばれる各谷と盆地に子院が立ち並び「山内地区」となります。一方、盆地の東には、最奥部の空海御廟に至る参道と石造物群が展開する「奥の院」が存在します。この「壇上伽藍(山内地区)」と「奥の院」は両壇として高野山の山内空間を分有し、それぞれ教学と信仰の中心として存在していました。

高野山ではこれまで数多くの発掘調査が行われており、その成果は高野山の歴史を解明する多くの材料を提供してきました。「古絵図で歩く高野山文化財マップー山内地区ー」では発掘調査成果を中心に、文化財建造物の保存修理の成果や古絵図を交えて高野山の歴史を紹介します。江戸時代に描かれた古絵図をもとに、往時の高野山を偲びつつ文化財をめぐり歩いてみませんか。